

滞在型研究員報告書（様式2）

（2008年9月策定）

国立天文台滞在型研究員の方には期間中の成果について報告をしていただくことになっております。このフォームに記していただき期間終了2週間以内に国立天文台研究支援係にご提出ください。なおこの報告書は研究成果の論文掲載前でも研究交流委員会のweb上に公開いたしますので、研究内容の詳細について記入していただく必要はありません。この研究の成果を学術誌等で発表するときはその旨を謝辞に記載してください。

所属 山口大学大学院 電磁宇宙物理学研究室

氏名 石田 貴史

受け入れ 氏名：紀 基樹

滞在期間 2012年 6月 4日～2012年 6月 29日

I. 滞在型研究員として国立天文台滞在中に行った活動について簡単にお書きください。

下記のように研究申請書に記述した国立天文台滞在中に行なう予定であった三つの活動を行ないました。

- 山口 32 m 電波望遠鏡を用いて観測したデータについて受け入れ研究員と共同で再解析を行ない、解析結果と時間構造関数の導出についてのクロスチェックを行ないました。
- 本研究に用いている VLBA のアーカイブデータについて水沢 VLBI 観測所の方々と再解析を行ない、VLBI データの解析方法および結果についてのクロスチェックを行ないました。
- VERA のデータについて水沢 VLBI 観測所の方々に解析方法を指導してもらい、共同で同データを解析しました。

II. 今回滞在型研究員として得られた成果について簡単にお書きください。

上記の活動を行うことで、この分野の専門家である受け入れ研究員をはじめ国立天文台の AGN 研究者と本研究について議論を深められました。これにより研究申請書に記述した本研究の逸早い論文化を目指し、論文のドラフトを作成することが出来ました。

III. この制度についてなにか御意見がありましたら、なんでも記入ください。

今回の滞在中で研究が飛躍的に進み、論文のドラフトを作成することが出来ました。今回滞在型研究員制度を利用しなければこのような研究の成果は得られませんでした。この滞在型研究員制度に関わられたすべての方にお礼申し上げます。